

家庭支援を行ったことにより、児童の生活状況が改善したケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 児童A及びきょうだいは、欠食により、学校で頻繁に空腹を訴える。
- 児童Aが、朝食を作っている様子が見られる。また、児童Aは、体調を崩すことが多い。
- 新型コロナウイルス感染症対策の影響により、母親の収入が減少していることが分かり、経済状況が心配である。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

SSWは、母親と面談を行い、子育て支援課主催でケース会議を行った。

(1) 基本情報など

- 母親、児童A、児童B、児童C、幼児Dの5人家族であり、母親はパート勤務である。
- 児童Aは、しっかりしており、家事やきょうだい弟妹の世話を担っている様子が見られる。
- 母親と学校との関係は良好であるが、母親が本心をなかなか語らないため、生活状況が見えない。
- 母親は、福祉等の行政機関には頼りたくないという気持ちが強い。

(2) アセスメント及びプランニング

- 母親は、エネルギーギッシュではあるが、様々なことに対し、状況判断ができない様子が見られる。
- 幼児Dにやや認知特性が窺え、母親が対応に苦慮しているように感じられる。
- 収入の減少だけでなく、母親の金銭管理の弱さもあり、月5、6万円の収入でも困り感は抱えていない。
- 該当する金銭的支援のほか、児童A及びきょうだいの食事を優先する必要があることから、一時的な支援として食糧支援を行う。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

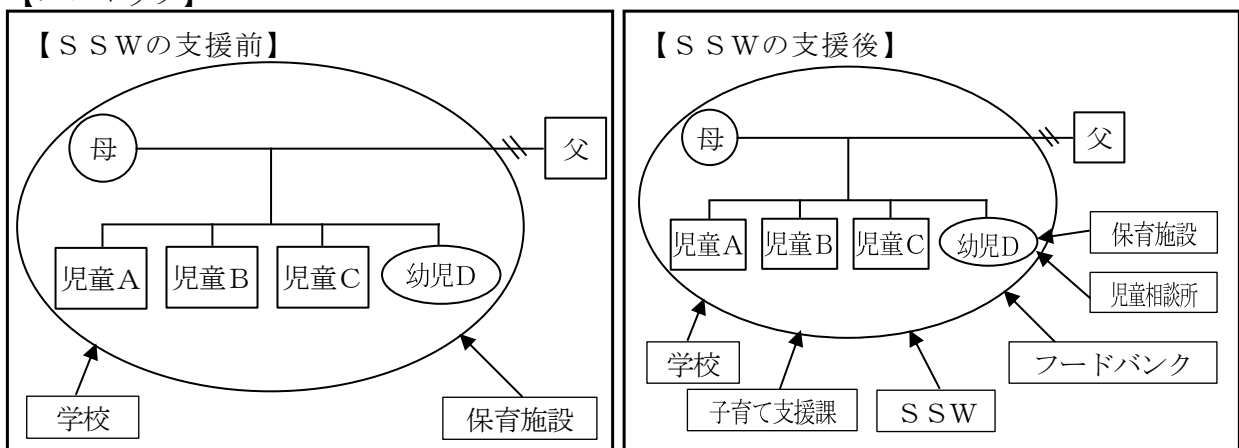
【学校、保育施設】生活状況の見守りを継続し、児童A～C及び幼児Dの生活を保障しながら自立を促すとともに、適宜、母親への相談支援を行う。

【子育て支援課】金銭的支援の介入を検討し、ネグレクト要素もあるため要対協管理とする。

【児童相談所】幼児Dの発達検査を依頼する。

【SSW】相談機関に抵抗がある母親との信頼関係を構築し、本ケースをコーディネートする。

【エコマップ】



4 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- 相談に強い抵抗のある母親が、学校を通じて支援に繋がることになった。
- 食糧支援を優先したことにより、児童A及びきょうだいの食事が安定した。
- 要対協管理により、見守りだけではなく、生活状況によっては即介入し、支援ができるようになった。
- 困窮問題は根本的に解決していないが、SSWが母親との関係を維持し、金銭問題を一緒

に検討する機会を設けることが今後の支援目標である。

**精神疾患等を抱え、養育困難な一人親家庭へ、
多くの社会資源を活用して的確な支援に繋がったケース**

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 児童Aは第5学年の長期休業後、長期休業中の課題ができていない、学習用具を用意できない等の理由から、欠席が続いた。
- 児童Aの保護者について、言葉の不明瞭、面談の記憶がないなど、心配な様子が見られたため学校から支援の要請があった。

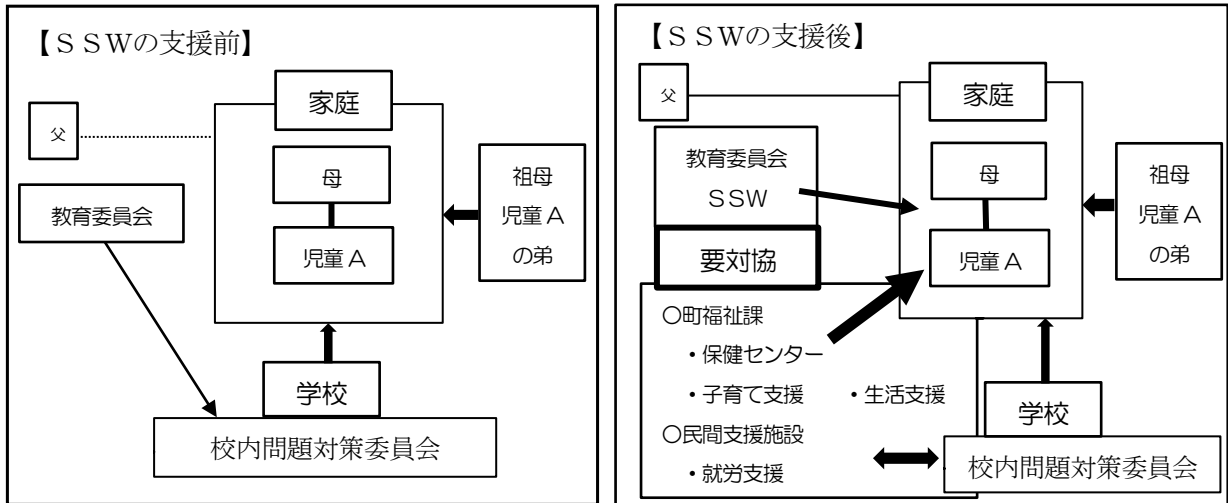
2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

SSWの働きかけにより実施されたケース会議において、次の基本情報などからプランニングが行われた。

- (1) 基本情報など
- 児童Aの保護者は、児童Aが生後まもなく離婚し、障害者年金の支給を受けながら2人で暮らしている。
 - 保護者は、精神疾患等多数の疾患を抱え、複数の薬を服用して生活しており、児童Aの前で発作や意識を失うことが度々あり、児童Aは安心して登校できていない。
 - 保護者は、疾患により料理や掃除等の家事全般ができないことから、ゴミが散乱している状況であり、養育の至らなさに悩み、苦しんでいる。
- (2) アセスメント及びプランニング
- 児童Aが安心して登校できるようにするため、保護者の健康の回復を支援するとともに、保護者の養育の負担を軽減するよう、社会資源を積極的に活用するように支援する。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

- 【学 校】
- 校内問題対策委員会を開催し、全教職員と情報共有、支援の協力体制の整備、児童Aに対する差別の予防や望ましい友人関係の構築、児童A及び保護者の困り感に寄り添い、児童Aの基本的な生活習慣の確立に向けた支援や学習支援などを行った。
- 【教育委員会】
- ケース会議を実施するため、学校やSSW、要対協、その他の機関と連絡調整を行った。
- 【町福祉課】
- 保護者の疾患に対する治療を適切に受けられるように支援した。
 - 保護者に対して生活支援制度家事支援（掃除と食事）を積極的に活用するよう支援した。
- 【エコマップ】



4 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- 児童Aへの登校支援だけでなく、保護者の健康支援と家事支援に取り組むことにより、保護者の健康管理と養育に関わる困り感が軽減し、児童Aは安心して登校できるようになった。

母親への支援を行ったことにより、児童の安全を確保したケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 児童Aは、母親から冷たくされていることを学級担任に相談した。
- 児童Aは、児童相談所に一時保護されたが、解除にあたって教育委員会からSSWに依頼があった。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

(1) 基本情報など

- 児童Aは、自閉症スペクトラムの診断を受けている。
- 母親は、不安神経症で精神的な不安定さが窺える。
- 母親は、学校の他の保護者との関わりは少なく、友人もいない。
- 母親は、学校の対応に不満を抱いており、学校関係者への不信感から信頼関係が構築されていないなど、学校との関係は良好ではない。

(2) アセスメント及びプランニング

- 児童Aの自閉症スペクトラムの特性により、母親が苛立ち、育児困難になっている。
- 母親自身の養育歴から愛着障害、対人不信、虐待の連鎖等が考えられる。
- 母親とSSWとの信頼関係を構築し、SSWがあらゆる面談、見学に同席同行する。
- 児童虐待の再発防止のため、母親との面談は継続して行う。
- 複数の関係機関による支援体制を確立し、SSWが情報共有や支援内容等を調整する。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

【学校】

- 児童Aの状況を把握するとともに、通級指導教室における支援を行う。
- 母親への連絡は直接行わず、通信等を活用する。

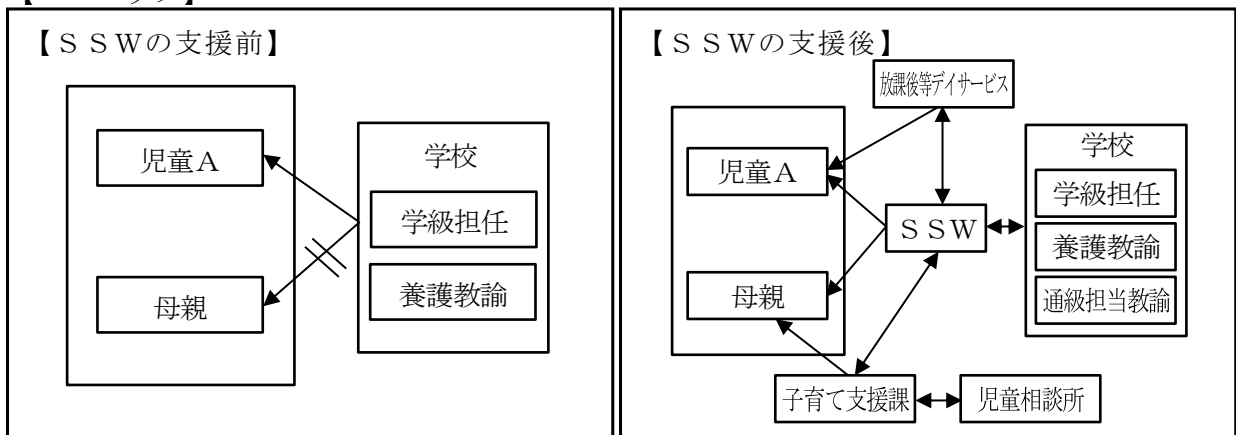
【SSW】

- 児童A及び母親が、気持ちを吐き出すことのできる機会をつくる。
- 関係機関への連絡調整や学校とのやり取りの補助など、母親の支援を行う。
- 放課後等デイサービスなど利用可能な福祉制度を紹介し、利用開始に向けた支援を行う。

【子育て支援課】

- 長期休業中や児童虐待時の一時保護を見据えて、児童相談所との連携を図る。
- 母親の育児相談を行う。

【エコマップ】



4 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- SSWが母親と学校との間に入ったことにより、学校とのやり取りをスムーズに行えるようになった。
- 通級指導教室における支援を行ったことにより、児童Aへのきめ細かな対応を行うことができるようになった。また、学級担任と通級指導教室の担当教員が関わるようになったことにより、児童Aの状況を詳細に把握できるようになった。
- 児童Aは、放課後等デイサービスに通所できるようになり、放課後の安定した居場所ができた。
- SSWが中心となって母親に対する相談等を行ったことにより、母親が抱えている気持ちを吐き出すことができるようになった。

虐待が疑われる家庭の支援と発達障がいの支援を行ったケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 小学校入学後、母子家庭となり、母親が児童Aに対して厳しいしつけを行った。
- 児童Aの衝動性が強く、器物を破損する事案が続いたことから、SSWが介入した。
- 母親からの身体的虐待があり、児童相談所で一時保護となった。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

子育て支援課が主体となって実施したケース会議において、次の基本情報などからプランニングが行われた。

(1) 基本情報など

- 母親自身が厳しいしつけを受けて育ったため、児童Aにも同様のしつけを行っている。離婚後、母親のしつけは更に厳しくなった。
- 児童A及び児童Aの妹は、母親の前ではおとなしいが、保育園や小学校では衝動性が高い行動をとる。
- 児童AはADHD、愛着障がい、軽度知的障がい、自閉的傾向も見られ、情緒面では、3～4歳程度である。また、暴言は多いが、語彙は少ない。自分の気持ちが伝わらないと気持ちが不安定になり、衝動性が高くなる。

(2) アセスメント及びプランニング

- 児童Aだけではなく、関係機関と連携し、母親への支援も行うこととした。
- 家庭内で母親が子育てを一人で抱え込まないようにするために、関係機関と連携し、家庭について総合的に支援を行うこととした。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

【児童相談所】

- 家庭児童相談室職員と一緒に家庭訪問で状況確認し、母親と児童Aと妹の関係性を改善するためにペアレント・トレーニングプログラムを実施した。

【小学校、放課後等デイサービス、学童保育】

- 児童Aの小学校、放課後等デイサービス及び学童保育での支援状況について母親と情報共有を行い、関係を構築した。

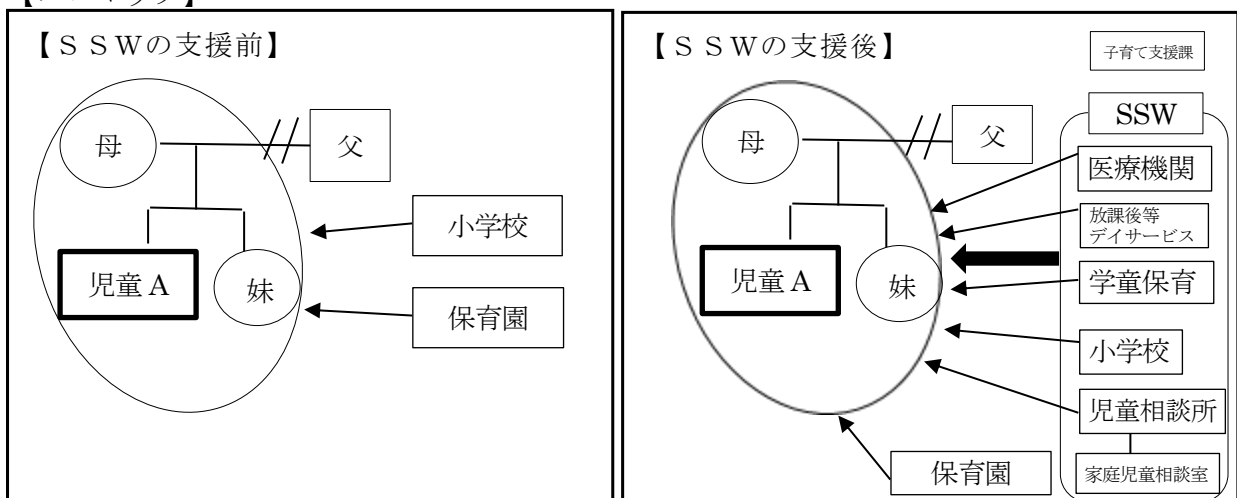
【医療機関】

- 児童Aの医療機関への定期受診時に母親への指導助言を行った。（SSW、学級担任も同行し、情報を共有した。）

【SSW】

- 母親への支援と、学校や療育での様子を確認し、医療機関や児童相談所と連携して家族支援を行った。

【エコマップ】



4 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- 医療機関を受診し、発達検査を受けたことで、児童Aの特性を理解した支援につながった。
- 特別支援学級への転籍、放課後等デイサービスの利用を開始したことで、適切な支援が受けられるようになり、児童Aに成長が見られた。
- 母親が周りからの支援を受け入れ、医療機関の受診により児童Aの特性を把握し、児童相談所でペアレント・トレーニングを受けたことで、児童Aへの関わり方に変化が見られた。

特別支援学級在籍児童の進路決定に向けた家庭支援を実施中のケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 児童Aは、小学校高学年の特別支援学級に在籍しており、中学進学を控えている。
- 保護者（母）は、児童Aを親元に置いておきたい気持ちが強い。また、自分自身で物事を判断することに苦手さを感じており、親族等の意見を受け入れてしまう傾向にある。
- 進路選択を支援するため、学校はSSWを含め子育て支援課と連携したいと考えている。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

SSWの働きかけにより実施されたケース会議において、次の基本情報などからプランニングが行われた。

(1) 基本情報など

- 児童Aはひとり親家庭であり、近所に保護者親族が居住している。
- 保護者は決断力が弱く、親族（特に保護者きょうだい）の意見に押されてしまう。

(2) アセスメント及びプランニング

- 学校と教育委員会が協力し、保護者・親族に公立中学校や特別支援学校の見学を勧める。
- 子育て支援課が介入し、児童Aの定期的な経過を把握する。
- 行政や社会福祉協議会が介入し、福祉サービスの提供を支援する。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

【学校】

- 学校行事後に定期的な保護者面談を実施。保護者・親族と信頼関係を保ちつつ、進学への考えや困りごとの聞き取りを実施。

【子育て支援課】

- 中学校進学の場合に備え、福祉支援の提供方法等を検討した。
- 保護者への支援方法を検討中。

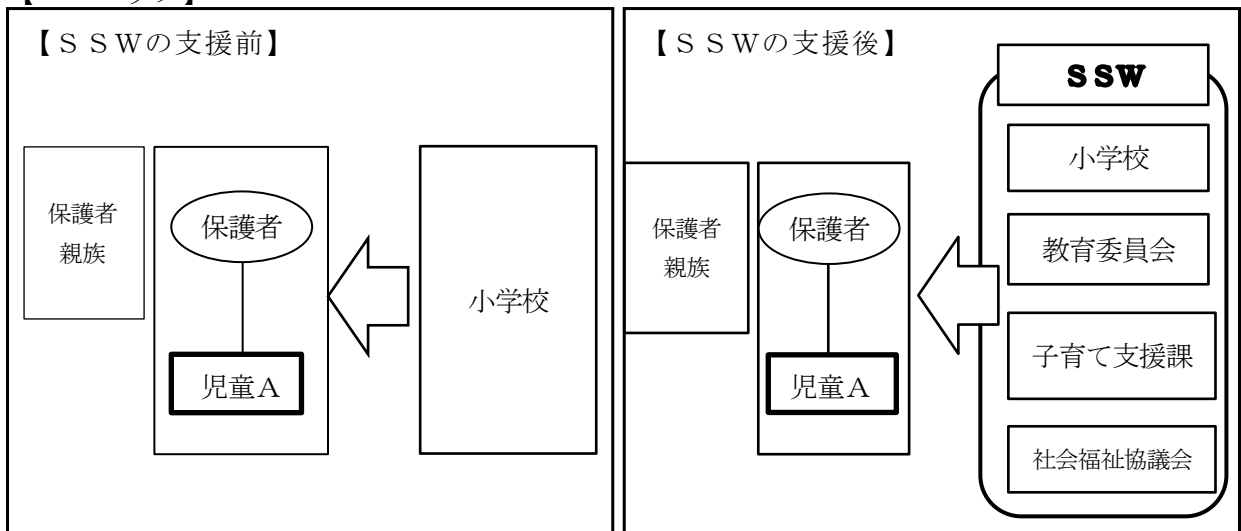
【社会福祉協議会】

- 中学校進学の場合に備え、放課後デイサービスや就労に関する方法を検討した。

【教育委員会】

- 子育て支援課と連携し、進学情報の提供や学校見学の勧めを実施した。

【エコマップ】



3 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- 児童Aの進路選択肢について幅が広がった。保護者への支援に道筋が付いた。
- 保護者支援の環境について関係部局との連携に道筋がついた。